

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和7年 1月30日(木) 第5校時
荒川区立第四峡田小学校 5年1組30名
授業者 第5学年担任

校内研究のテーマ

自ら課題を見付け、見通しをもって活動する児童の育成

1 単元名

「よんぼうSAI」(11月～3月)

2 単元の目標

災害発生時の地域の防災上の課題を探究したり、防災のための安全な町づくりに向けた活動を地域の方と行ったりすることを通して、命を守るための方法や行動の仕方を身に付けると共にそれを守る町の取組について理解し、多様な立場の人とともに災害に備えるために地域の一員として自分にできることを考え、学んだことを自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の評価規準

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
①知識及び技能	②思考力・判断力・表現力等	③主体的に学習に取り組む態度
ア 災害発生時の危険な場所や安全な避難の仕方を知るとともに、自分で自分の命を守る意識が重要であることを理解している。	ア 身近な地域の防災上の課題から問いを見出して課題を立て、調べたことを基に、解決の仕方について計画を立てている。	ア 災害について関心をもち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら課題を解決しようとしている。
イ 学校や地域の防災における現状について、目的に応じて方法を考えて調べている。	イ 自然災害や防災の在り方をよりよく理解するために、対象に応じた必要な情報を収集している。	イ 施設の方やGTなどの考えを生かしながら協働的に探究活動に取り組もうとしている。
ウ 防災に関する意識の高まりは、地域の防災上の課題を解決するために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	ウ 多様な立場の人にとって安全な町づくりになるよう、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・検討したりして解決に向けて考えている。 エ 伝える相手や目的に合わせて分かりやすくまとめ表現している。	ウ 自分と防災や地域の人々との関わりに気付き、自分の命を守る行動や、地域のためにできることを考え行動しようとしている。

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年7月）第5章第3節に示された「②地域や学校の特色に応じた課題」における、「防災のための安全な町づくりとその取組」を踏まえ、構想したものである。本校の周辺は入り組んだ狭い路地や木造住宅が密集する地域もあり、「地震に関する地域危険測定調査」において、建物倒壊危険度や火災危険度が一番高いランク5に評価されている（出典：東京都都市整備局）。自分たちが住む荒川区を調べることで、地域の特性や自分の身を自分で守る方法を理解するとともに、地域の一員として防災のための安全な町づくりに参画するような資質・能力を育てていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、自分の課題解決に向けて調べ学習を行うことに意欲的である。また、調べたことをまとめる際には、積極的に友達と関わり合いながら学習する場面が多く見られる。一方で事前にとったアンケートでは、ハザードマップを見たことがある児童が約半数であることや、家での防災の備えなどを知っている児童も約半数など、災害への危機意識が低いことが分かる。避難訓練で行っている避難行動は取ることができるが、実際に大きな災害を経験したことがなく、災害を想定して様々な状況を判断し、自ら考えて行動した経験がない。そこで、災害の怖さを知り、自分たちや下級生が学校で安全に避難できるように考えることから始める。さらに、地域の一員として防災の課題を見付けさせ、焦点化した調査活動を行うことで、地域や多様な他者へ目を向けた探究学習に取り組めるようにする。

(3) 教材観

本単元は、いつ起こるかわからない災害について調べたり、体験・行動したり、まとめたりする活動を通して、発災後の72時間を生き抜くためのフェーズについて取り組んでいることを学び、自分が住む荒川区でできる取り組みを発信するという内容である。また、理科第5学年「B 生命・地球の（3）流れる水の働きと土地の変化」、「（4）天気の変化」（イ：台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害についても触れる）、社会科第5学年「（5）（ア）自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業をすすめていることを理解すること。」と関連させることができる。探究活動を繰り返す中で、荒川区の防災課や中学校の防災部との交流、「そなエリア」や「がすてなーに」などでの体験を取り入れる。防災のための安全な町づくりに向けて活動している多様な立場の人へのインタビューや施設の体験を繰り返す行いを通して、自分の命を自分で守るために必要なことを理解し、安全な町づくりのためにできることを考えることができる。そして、自ら課題を見付けて地域の一員として考え、実際に行動しようとするすることができる教材だと考えられる。

5 研究主題に迫るための手だて

視点① 児童が自ら課題を見付けることができる単元計画

- ・施設、区の防災課、町内会、中学校の防災部との連携などさまざまな体験ができる機会を設定することで自分事として考えるきっかけから課題を見付けることができるようにした。
- ・単元のゴールや毎時間のめあてを児童と一緒に考えることで、与えられた課題ではなく、児童が自ら課題を見付ける事ができるようにする。
- ・振り返りを行う前に本時の活動をまとめることで、児童が次時の活動内容を明確にした上で課題設定を行える指導計画とした。

視点② 児童が見通しをもって学習に取り組むための手立て

- ・発表の対象や方法を児童と一緒に考えることで、目的に合った探究学習を行えるようにした。
- ・防災について専門的なアドバイスを得るために、体験や出会いを意図的に設定する。専門的な内容を基に、関わりを深めながら課題解決に向けた学習を進められるように環境を整える。
- ・互いの考えを比較したり、情報を整理したりするためにグループでの話合いの仕方や思考ツールの使い方を様々な教科で継続的に指導する。

6 5年1組の単元の活動計画（全35時間）

児童の実態	・調べ学習に意欲的に取り組むことができる。 ・他者に伝える活動において自信をもって取り組むことができる。	・災害のフェーズと3助から自分たちの住む荒川区に着目させる。 ・防災について保護者・児童にアンケートを実施し、その結果をもとに活動する。	きっかけの工夫
-------	---	---	---------

単元に向かう思いや願い	・身近な災害の危険さを知り、荒川区の防災について調べ、自分たちが荒川区のために取り組める内容を発信したい。
--------------------	--



小単元名（時数）	○主な学習活動	● 予想される思考や気付き ☆ 次の小単元につながる思考や気付き
災害について知ろう！ （5）	【情】 災害の種類を知る。 【整】 災害で起きる被害についてまとめる。 【ま】 整理したことを学級で共有する。 【課】 振り返りの内容から身近な災害を防ぐためという課題を設定する。	・災害って一言で言っても、たくさんの種類がある！ ・理科でも学んだよ！ ・災害の被害についても知りたい！ ・だから避難訓練って大事なのか。 ☆次は身近に起きる災害を防ぐ方法（防災）について調べたい。 評価規準 ①ア・②イ
防災の取り組みを知ろう！ （7）	【情】 災害を防ぐ手段を知る。 【整】 災害ごとに情報を整理し、学級で共有する。 【ま】 防災について分かったことをまとめ、体験活動につなげる。 【課】 防災をしても起きてしまう被害を最小限するためという課題を設定する。（本時）	・防災ってなんだろう。 ・災害が起きる前の防災もある。（ハザードマップ、3助） ・事前学習したことを「そなエリア」で確認し、すごく思い出に残った。 ☆体験して、災害が起きた後の取り組みの必要性に気付き、調べたい。 評価規準 ①イ・①ウ・②イ・③ア
荒川区の防災をマスターしよう！ （8）	【情】 災害が起きた後に生き抜くための手段を知る。 【整】 身近な防災を意識し、整理する。 【ま】 荒川区の防災をまとめ、体験活動につなげる。 【課】 荒川区に住む人（町屋）に対して72時間を生き抜くために防災の取り組み課題を設定する。	・72時間のフェーズが大切だね。 ☆四峡のみんなは知っているのかな。 ・G Tに話を聞けて、荒川区について初めて知ることがあった。 ☆せっかくなら荒川区に住んでいる人にも発信したい。 ☆どんな発信ができるかな？ 評価規準 ①イ・②ア・②ウ・③イ
自分たちができる荒川区の防災を発信しよう！ （15）	【情】 担当に分かれ、実現するための手段について調べる。 【整】 必要な情報を整理し、まとめる方法や伝える方法を決める。 【ま】 班に分かれて作成する。情報を発信する。単元全体の活動を振り返る。	・ポスターなどの展示や試作品の体験をしてもらえるかな？ ・調べたことが町の人にも伝えることができて嬉しい。 ・荒川区を自分でも知ることができ、伝えることもできた。 評価規準 ①ウ・②ウ・②エ・③ウ



単元の終わりまでに育ってほしい姿	・住む町の災害の危険性と防災の大切さを他者に伝えることができる。
-------------------------	---

7 本時の活動計画（12／35）

（1）本時の目標

災害について関心をもち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら課題を解決しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

（2）本時の展開

○児童の主な学習活動 分 ・予想される児童の思いや考え	□教師の支援 ☆評価規準（対象）【観点】
○前時までの1・2サイクルを振り返る。3 ・災害の危険性について知ることができた。 ・災害が起こる前の防災の手段をたくさん知ることができた。 ・地震・火事・水害に絞った。	□災害の危険性と災害が起きる前の防災について学んだことを振り返る。 □体験時の資料提示をする。 「知っていることがいのちを守る」
○単元開始前に保護者・児童にとってアンケートから現状と比較し、学習の流れを確認する。8 ・ハザードマップが分かるようになった。 ・ローリングストックの意味と重要性を知ることができた。 ・家の備えを知らない人が多かった。 ・備えにも種類があるね。	□アンケートで単元前の知識と現状の知識を比較し、学習から今後意欲を高める。 □本時の学習の内容を見通して児童の言葉でめあてを決定する。
（例）災害が起こってから大切な72時間を生き抜くために、今できることを考えよう。	
○「そなエリア」で学んだことを整理する。7 ・すごい災害だったね。 ・実際に起きたら家はどうなるのだろう。 ・たくさんの備えを知ることができた。	□体験活動から内容と災害が起きた後を想像させ、被害を最小限におさえる防災について具体策を出し、意識が向くようにする。
○3助に触れ、色で分ける。 （軸の使用、個人→ペア活動へ）14 ・公助・共助がすぐできない。 ・自助が必要。	□起きた後には、周りの助けが得られないことから、自分で助かる（自助）についての必要性を児童の中であげていく。
○内容を聞き、本当に72時間生き抜くことを考え、対応のくりにまとめる。3 ・もっと自助が必要。 ・食料、水、施設環境が大切。	□多くの考えを聞くことができるよう、全体でも共有する。 ☆災害について関心をもち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら課題を解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
○アンケートの続き・資料の提示をする。3 ・避難所は分かるけど、二・三次は知らない。 ・「身近なものがあなたを助ける」 ・「必要なのは、ひらめきです」	□アンケートの結果をもとに72時間生き抜くために必要だと思う準備を次時につなげるように促していく。
○自助の防災について次時への見通しをもつ。2 ・何を調べるのか、どの内容で調べるのか。 ・自分が住む家や町の安全性はどうか。 ○本時の振り返りを書く。5 ・自助の大切さを知った。 ・自分でできることを増やしたい。	□次時への見通しをもった状態で振り返りを行うことができるように声を掛ける。 □書くのが難しい児童には、本時を通して、気付いたことや学んだこと、次時に向けての自分の考えなどを書くよう声を掛ける。

8 グループ協議、協議報告

A:①自分事として捉えられていた。

座標軸の右上＝今自分にできることを理解できていたのか。

座標軸の使い方がわかっていたのか。特に時間軸の位置。

課題を見付けるための単元になってしまっていないか。

②社会科見学で学んだことの整理分析をする時間という印象。

児童の願いや思いは？他者に伝えるということをもっと意識させたい。

見通しをもたせたい。

児童の実態に合っていた。

B:①アンケート→見学→まとめの流れがよい。

自分事として捉えるための発問の工夫を。

②一問一答の印象。

C:①社会科見学を単元の中に取り入れた→自分事になる

課題を見付けに行く授業という印象。

②担任のテンポがよい。児童の実態に合っていた。

指導案との違いは？

D:①社会科見学や社会科との関連がよかった。

児童の思いをもっと生かせるようにしたい。

アンケートが効果的。

②学びの経過を Google スライドに残すことで、児童が内容を振り返ることができていた。

授業者

- ・ 見学を通して、自助が増えたことを実感させたかった。
- ・ 課題を見付ける前に課題を知ることが必要だと感じた。
- ・ まだ他人事な気もするが、単元を始める前から比べたら、成長を感じる。
- ・ 社会科見学を経て、本時の計画を変更した。
- ・ 授業の流れについて実態に合っていたようだが、児童にもっと考えさせることが今後の目標。

指導講評(講師:國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 准教授 三田 大樹 先生)

- ・ 防災を扱う単元は難しい。「イメージの世界を引き寄せる」ことをしなければならない。
指導案よくできている。

- ・ 資料提示→共感→自分事→見通しに沿って…のサイクル

【資料提示→共感】アンケートのデータ、教室掲示、資料提示等が効果的。

【自分事】論点の明確化、めあて（2つの視点）。ここまではいい流れ。

【見通し】論点と思考活動に、ずれ。

タブレットの強み…記録が簡単。

紙の強み…すぐに作業できる。 どちらが効果的か？

↓

どんな思考活動がよいのか？ 各グループで協議。

- ・ 思考のプロセスとして、「考えを出し合う→分類（自助 or 公助）→分析まとめ」を意識して指導。

- ・めあて（72時間）に沿って、災害が起きる「前」には触れず、「後」のことを具体的に考えさせる。
- ・グループごとに一枚の模造紙にまとめて、比べ合う。
比べ合うためには、違いが見える問いが必要。
- ・模造紙と付箋を使用。視点ごとに色分けしてわかりやすく。

…話し合ってよかったと思える設定が大切。

（個人→集団がよく行うパターンだが、防災は各家庭の状況によるので集団→個人が効果的）

時間軸で

	0 時間後	2 4 時間後	4 8 時間後	7 2 時間後
自助				
共助				

ランキング

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
自助					
共助					

- ・総合的な学習の時間の単元を充実させるためのポイント ※資料参照。

10の視点

発信のバリエーション

9 成果と課題

<成果>

- ・住んでいる場所が災害に弱いため、児童に危機感をもたせることができた。
- ・社会科見学を通して、災害について体験し知識を取り入れたり、教科横断型で授業内容を活かしたりなど関連する体験をすることができた。
- ・単元を始める前の家族・児童本人へのアンケートや、もちつき大会での父ネットのお話など身近な人の取り組みに触れることで自分事へと少しずつ変化していった。
- ・児童の思考状態にあった資料の提示やツールの活用などを行うことができた。

<課題>

- ・児童ごとに家庭の状況などを含めて必要な備えが違うので、まとめ方が難しい。
- ・防災でも、起きる前・72時間後・内容で絞るなどたくさんのゴール設定があるなかで指導者側の知識や考え、情報収集がすごく求められ、児童に反映していく発問の工夫が必要。
- ・経験がないため自分事として捉えるための手段が必要。
- ・外部との適切な時期・内容での連携、学んだ内容の発信など時間・場所の設定が求められる。